

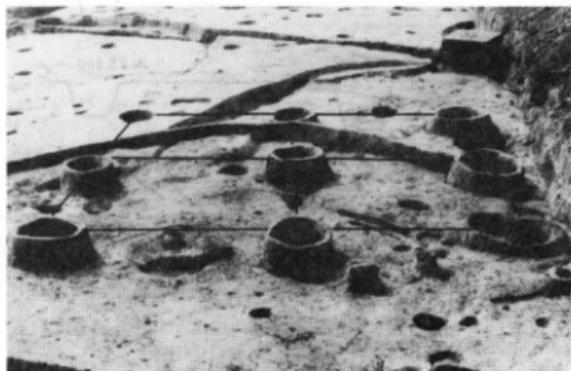
径1.5cm程の円形の孔が認められた。また、ここからは多量の須恵器・土師器の他に大型草食獣の顎骨が出土しているが、これは鑑定の結果牛のものであることが判明した。

これらの遺物の出土状況からみて、SD-02は自然に埋没したものではなく人為的に埋め戻されたものであり、出土した遺物群は溝の埋め戻しの途中で行なわれた何らかの祭事の痕跡ではないかと考えられる。

#### SB-02・SD-04

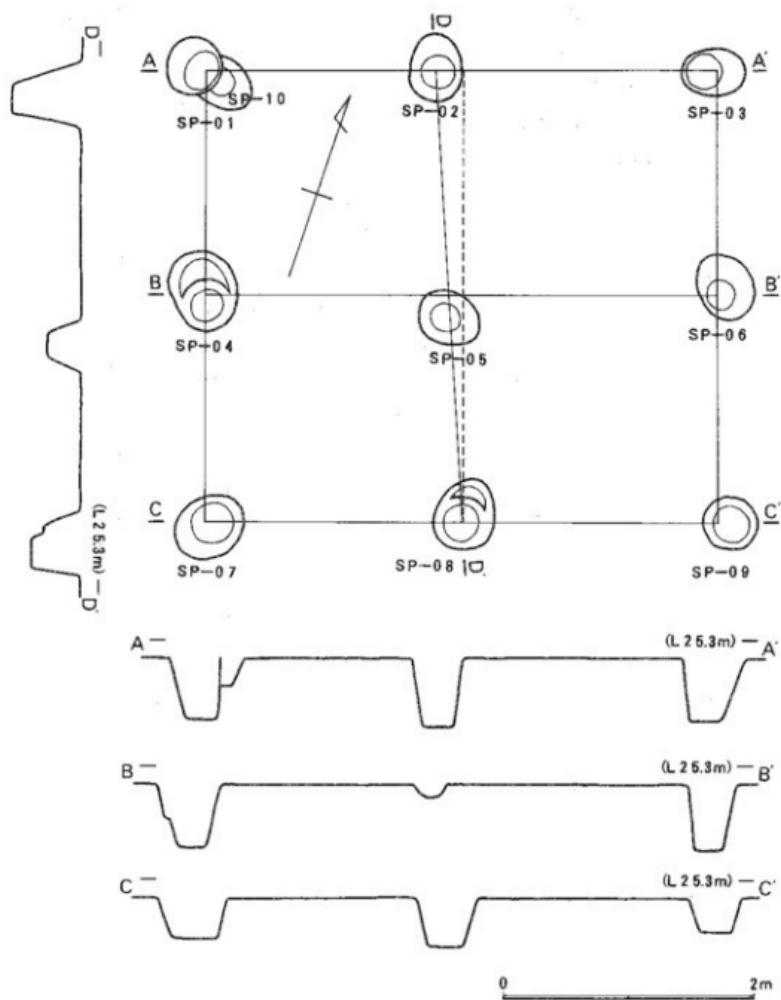
SB-02はB-6グリッドの東側からC-6グリッドの西側にかけて検出された、SP-01~09の11個の柱穴によって構成される掘立柱の建物跡であり、主軸はN-18°-W方位を向いている。柱穴はいずれも掘り方が50~60cm程のもので、黒色粘性土の埋土中からは弥生土器片と共に少量はあるが須恵器片も出土しており、古墳時代以後の遺構であると考えられた。SB-02は調査区の西壁添いで検出されたため、SP-01・04・07の延長上に幅60cmのトレンチを設定してみたが他に柱穴は認められず、二間・二間の規模であることが判明した。

SB-02の周辺には、これに伴う同時期の遺構としてSD-04が認められた。SD-04はC-7グリッドの南西隅からN-約10°-E方位に向かって延びる、幅40~50cm・深さが20~25cmのU字形の断面を呈する溝で、C-8グリッド南端でSD-01に流れ入んでいる。SD-04の埋土はSD-01と同じ様に礫や弥生土器片を多く含む黒色粘性土で、遺構の切り合いは認められず、やはり古墳時代後期頃の須恵器や土師器が出土している。SD-04はSB-02から直線的に北へ向かって延びており、SB-01に伴うSD-01の関係と同様に、SB-02に伴う排水施設ではないかと考えられたが、遺構がどれ程削平されてしまっ



第215図

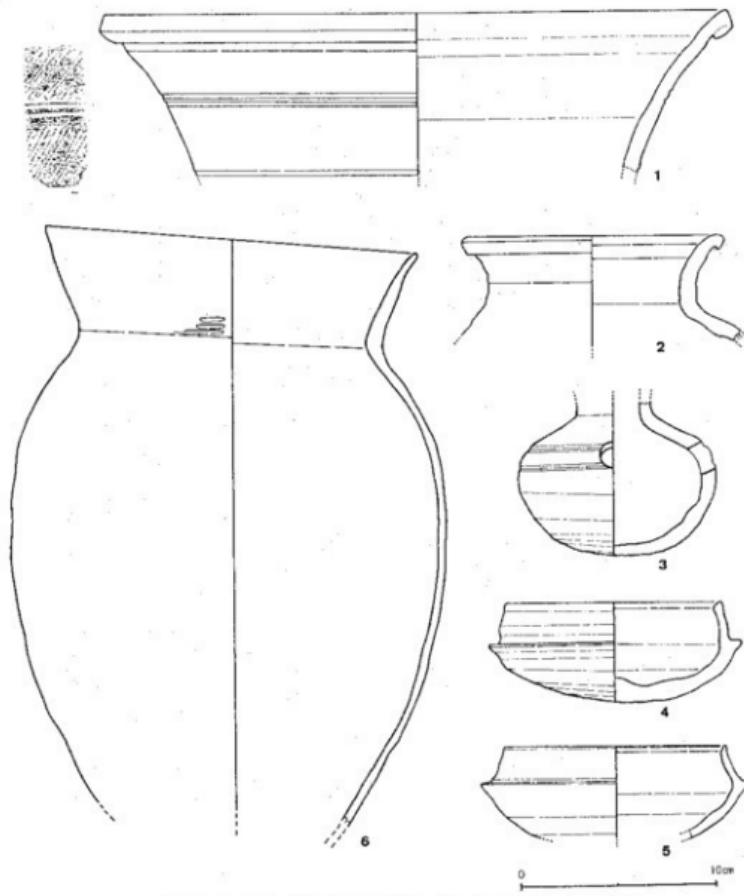
SB-02(北から)



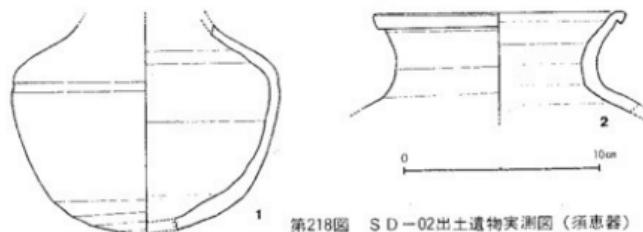
第216図 SB-02平・断面図

ているかは不明であり、詳細を解明することはできなかった。

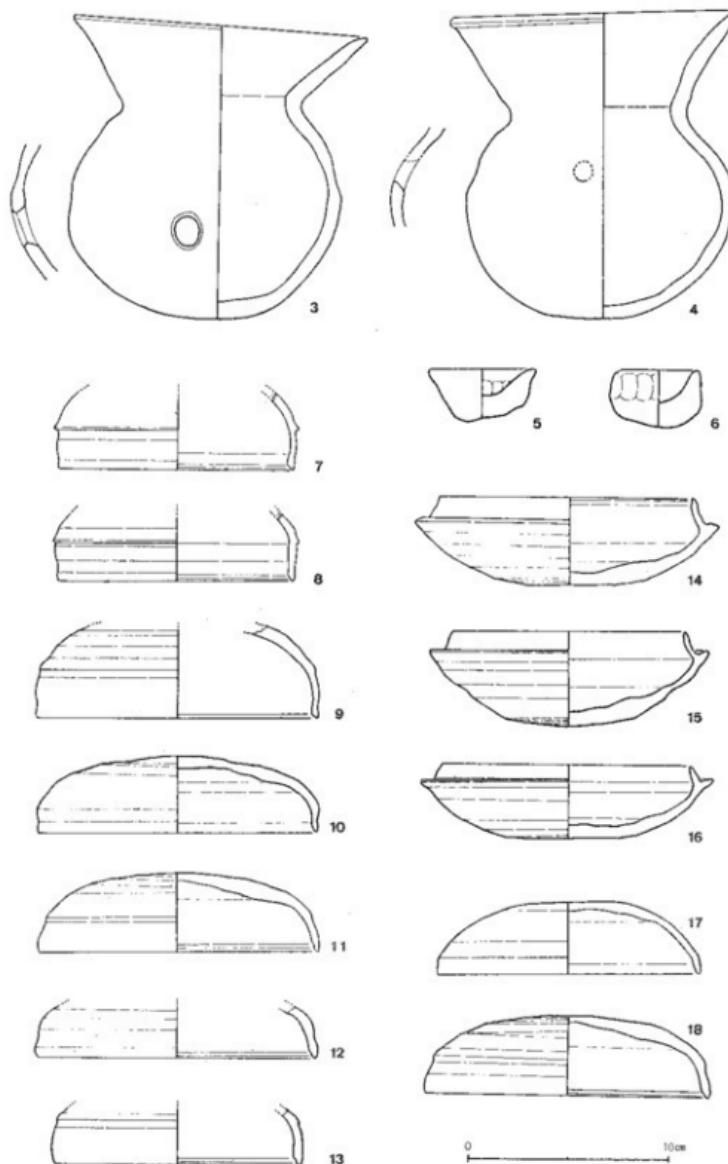
また、以上の状況からみるとSB-01と02は同一時期の遺構と考えられるが、両方の主軸方位が多少異なっており、調査区内を見る限りではこの時期の遺構が散在し過ぎているなど、多くの問題が残っている。



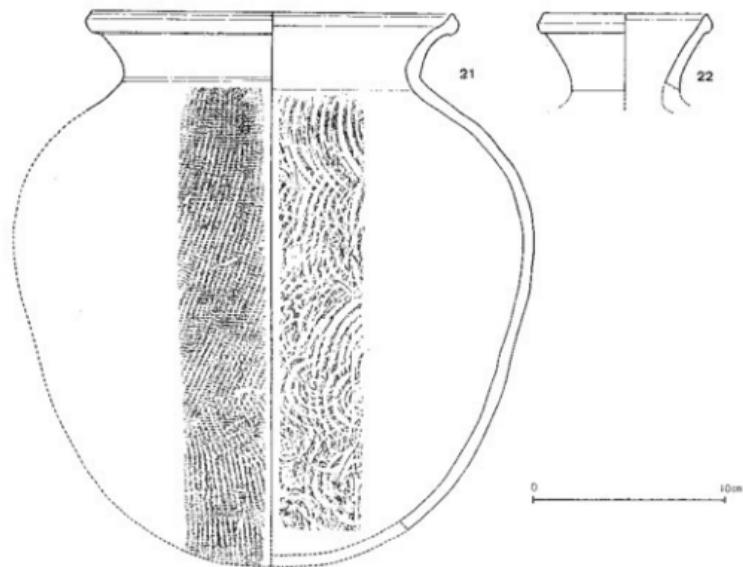
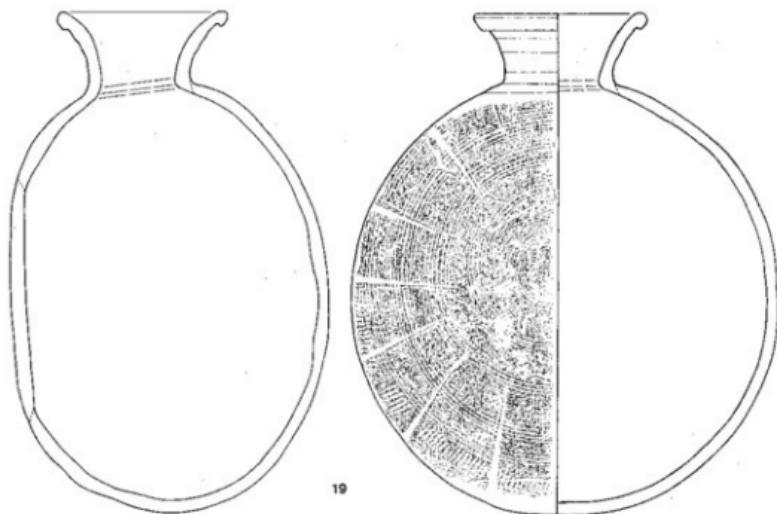
第217図 SD-01出土遺物実測図（1～5須恵器・6土師器）



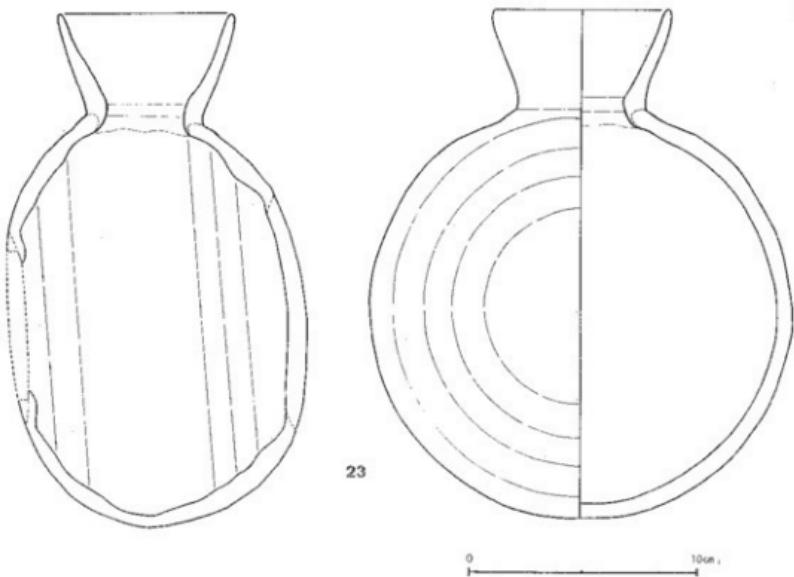
第218図 SD-02出土遺物実測図（須恵器）



第219図 SD-02出土遺物実測図 (3~6 土鋤器・7~18須恵器)



第220図 S D-02出土遺物実測図（須恵器）



第221図 SD-02出土遺物実測図（須恵器）

#### SD-05・SD-06

SD-05は調査区のほぼ中央で検出された幅80~140cm・深さ20~25cmの周溝状の溝である。SD-05の埋土は黒褐色砂質土と極めて多量の礫群であり、数か所で断面を観察したところ周溝の内側から流入し堆積したものであることがわかった。この礫群の中には弥生土器片の他に、古墳時代後期頃の須恵器・土師器片などが多数含まれていたが、SD-05はC-9グリッドの北西隅でSD-01を切っていることから、この溝は古墳時代後期でSD-01廃絶後に構成されたものであると考えられる。また、SD-05からは調査区の東壁添いで、弥生土器片と共に銅鏡が一点・磨製石戈か石劍の破片と思われる黒色粘板岩製の石製品一点が出土している。

SD-05の内側ではこれに添って巡る幅240~440cm・深さ5~15cmの溝が検出されており、その遺存状況から、この二本の溝は同じ構造物に伴う遺構であると考えられる。このSD-06はSD-05と比べると浅いが幅は極めて広い。そして埋土は黒褐色砂質土で、溝の内側に添って1cm前後の小礫が幅1mの帯状に堆積しており、その上には大型の礫が多数認められたが、その状況や土層の断面観察によって、溝の埋土は周溝の内側から流入したものである

ことがわかった。また、SD-06ではD-9グリッドから須恵器の大甕が出土している。これは遺構と共にその大半を失われてはいたが、口縁部の残りは良く、口径が約60cm・胴部最大径が1m近い、極めて大型のものであることがわかった。

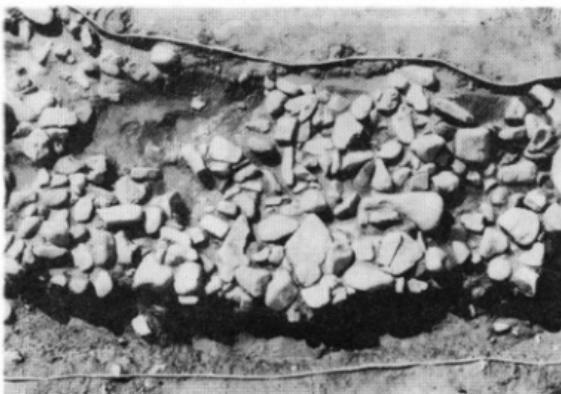
SD-05・06中に認められた礫群は河原石がほとんどであるが、30cm程のブロック状の安山岩も多数認められた。そして、いずれの溝もその内側から流入した砂礫によって埋没しており、内側が高い構造であり多量の礫がそこにあったものと推定されることから、時代的にみて直径が20~30mの古墳（多角形墳）の基底部（SD-06）と周濠（SD-05）ではないかと考えられる。しかしながら、この遺構は北側を擾乱されてしまっており、東側が調査区外であることから全体的な形態を把握することはできなかった。

※弘田川の下流西岸には、平地中に古墳時代後期頃の盛土山古墳が存在している。これは



第222図

上から SD-01・05・06  
(北から)



第223図

SD-05検出状況

第224図

S D - 05検出状況

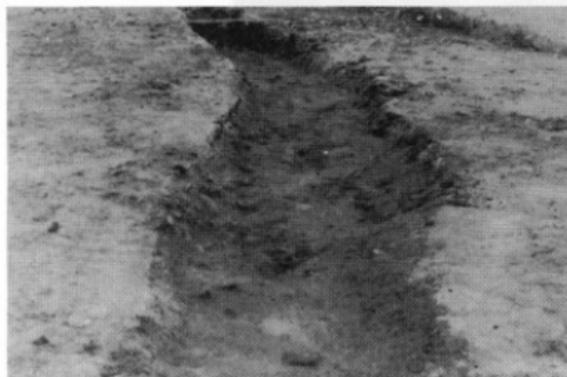
(西から)



第225図

S D - 05埋土除去後

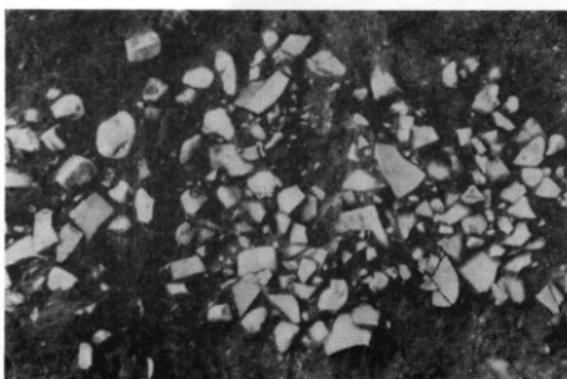
(西から)



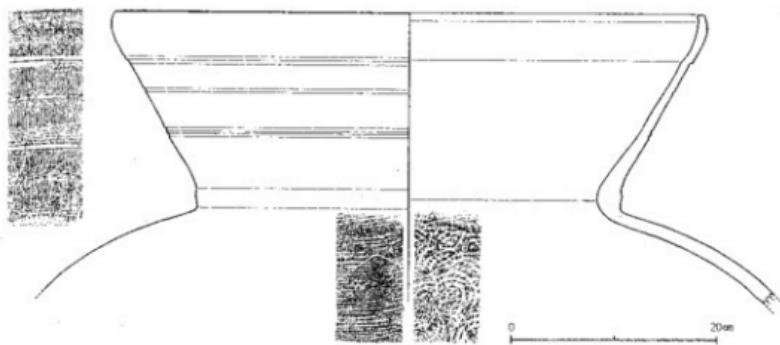
第226図

S D - 06

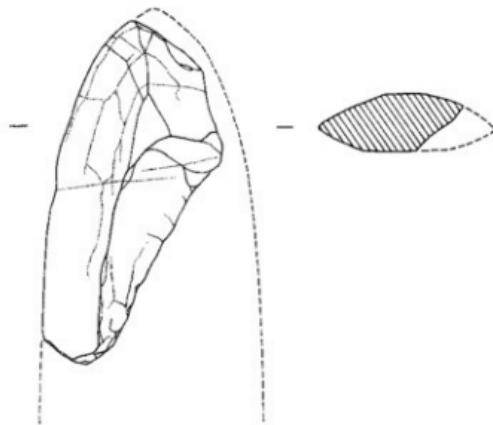
須恵器大甕出土状況



推定復元径48m・高さ5.7mの二段築の大型円墳であり、墳丘盛土が非常に多くの円礫を含む砂質上で、周辺を掘り下げて盛り土が行なわれていることと周濠が存在していたことが知られている。



第227図 SD-06出土須恵器大甕実測図



第228図 SD-05出土磨製石製品実測図(原寸)

## 4. 獣骨・炭化物分析表

岐ノ宗遺跡出土遺物分析表

古市光信

## 獣骨類

No	出士場所	内 容	備 考
1	ST-02 墓土	イノシシ 白齒片	
2	ST-02 墓土	イノシシ 切歯片	
3	ST-06 墓土	イノシシ 左下第3大臼歯	
4	ST-01 床面直上	イノシシ 白齒片	
5	ST-02 墓土	イノシシ 白齒片	4種の炭化種子が伴出
6	SP-8 墓土	シカ 白齒片	
7	SD-01 墓土	イノシシ 右下第3大臼歯	
8	ST-17 墓土	シカ 白齒片	
9	C-8グリッド掘乱層	草食獸 (ウシ・シカ類) 白齒片	
10	ST-09 床面直上	不詳骨片 (イノシシ白齒片?)	
11	ST-26 床面直上	不詳骨片 (イノシシ白齒片?)	
12	ST-20 墓土	不詳骨片 (イノシシ白齒片?)	
13	ST-20 墓土	不詳骨片 (イノシシ切歯片?)	
14	ST-06 墓土	不詳骨片	
15	ST-23 桟穴中	シカ 右けい骨下部	時代的にみてニホンジカ
16	ST-03 床面直上	ニホンジカ 角	時代的にみてニホンジカ
17	SP-1 頭部	不詳骨片 (ウサギ切歯?)	
18	ST-03 墓土	不詳骨片	
19	ST-01 床面直上	不詳骨片	
20	SD-02 墓土	ウシ 右第2または第3臼歯	
21	ST-18 墓土	イノシシ 右下第1切歯	
22	ST-15 墓土	イノシシ 右上第3大臼歯	
23	ST-18 墓土	ネズミ 切歯	
24	ST-18 墓土	不詳骨片	
25	ST-18 墓土	不詳骨片	
26	ST-18 墓土	不詳骨片	
27	SD-02 墓土	不詳骨片	
28	ST-27 墓土	イノシシ 白齒片	
29	ST-27 墓土	不詳骨片	
30	ST-09 墓土	シカ 角の分枝部分	時代的にみてニホンジカ
31	ST-20 墓土	不詳骨片 シカ 角の部分?	
32	ST-03 中央土坑	シカ 角の部分 切断痕が認められる	時代的にみてニホンジカ (表面のいぼ状突起により判定)
33	ST-02 墓土	イノシシ 白齒片	
34	ST-02 墓土	不詳骨片	
35	ST-02 墓土	不詳骨片	

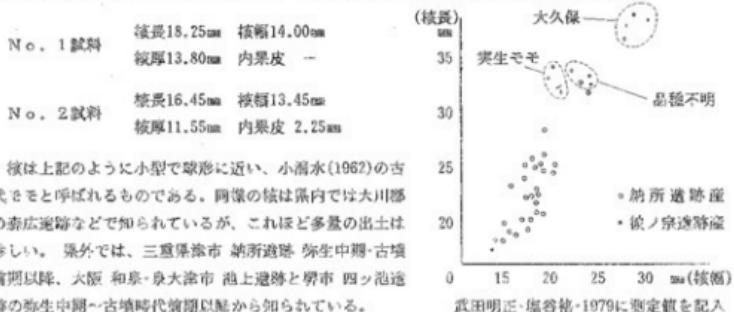
獣骨類については詳細を期するため、香川大学 地学教室 中谷英夫助手に同定を依頼した。

(表中 No.3,7,17,20,21,22,23 )

### 炭化種子

ST-02の埋土から出土した4個（そのうち保存の良い1個をNo.1試料）、ST-24の埋土から出土した2個（そのうち保存の良い1個をNo.2試料）、ST-03・15・16、SD-01・02の埋土からそれぞれ1個づつ出土した炭化種子は、全て同一の、古代キモとも呼ばれる小型のモモの核である。

※そその核 (*Prunus persica* BATSCH) 核の一端にバラ科特有の龍骨状の突起が縦に走り、管束孔が溝状に走り、内果皮厚く、モモ特有の粗い表面の凹凸模様をつくっている。



### 炭化木片

No	出 土 場 所	内	考
1	ST-21床面直上	広葉樹、小片で詳細不明（孔隙性であるが放射組織の発達はなし）	消失家屋
2	ST-35床面直上	落葉広葉樹、コナラ亜属（クヌギ・アベマキに似る）	
3	ST-26床面直上	常緑広葉樹 シイノキ	
4	SK-22床面直上	骨材広葉樹 シイノキ	
5	ST-37床面直上	保存悪く頽壊にたえない	
6	ST-15鉄穴中	広葉樹材、小片で詳細不明（孔隙部の高い材か？）	柱材の残り？
7	ST-37床面直上	広葉樹、保存状態悪く詳細不明	
8	ST-37床面直上	落葉広葉樹、コナラ亜属（クヌギ・アベマキに似る）	

シイノキやコナラ類は現在も普通に生育しており、近畿地方の同時期の遺跡にも普通に認められる。シイノキは暖帯域の生育樹種である。また、ST-20の床面直上から出土した範囲の炭化物については、試料片を得ることができずイネ科植物であること以外詳細は不明。爛んでいるかどうかは疑問である。

出土した獸骨・炭化木片・炭化種子については、香南町立香南中学校教諭・古市光信氏に鑑定を依頼した。

## 第四章 まとめ

旧練兵場遺跡彼ノ宗地区では、弥生時代中期頃に初めて竪穴住居が造られており、後期を経て、弥生時代終末期には飛躍的な広がりをみせることが確認されたが、この弥生時代終末期を境にしばらくの間、人々の生活の跡を示す遺構・遺物などは全くみられなくなる。次に認められるのは掘立柱建物跡や古墳の基底部と推定される遺構群であり、これらはいずれも古墳時代後期頃の所産と考えられる。

掘立柱建物跡は2棟(SB-01・02)確認されている。この2棟は主軸方位がやや異なるものの、いずれの遺構からも北に向かってゆるやかに下る溝(SD-01・04)が延びている。建物に伴うと考えられるこの2本の溝は合流しており、北端で弘田川に流れ込んでいたようである。SD-01からは弥生土器片の他に、6世紀初めから6世紀末頃にかけての須恵器や土師器が多数出土しており、掘立柱建物跡を含めて古墳時代後期頃の所産であると判断した。また、SB-01の東側には「く」の字形に折れ曲がる溝(SD-02)が検出され、ここからは牛の顎と伴に穿孔された土師器の壺やミニチュア土器がセットで出土しており、何か特殊な祭祀が行なわれたようである。そしてSD-02からは、やはり古墳時代後期の須恵器が多く出土しており、遺構の検出状況などからも、この溝の東側に中心的な遺構の存在が考えられる。これは、調査区内で検出された古墳時代の遺構や遺物が比較的少なかったのに対して、四国農業試験場から国立病院にかけての範囲からは、弥生土器と伴に多くの須恵器・土師器などが出土することからも推測される。

調査区北端で検出されたSD-05・06は古墳の基底部と考えられるが、平地に存在する大型の後期古墳で、その形態も多角形を呈する特異なものである。普通寺市内では、他にも400基を越える古墳が確認されており、この地が古くは那珂郡と呼ばれ有力豪族佐伯氏の拠点であったことも知られているが、未だに古墳時代の集落遺構は発見されていない。

旧練兵場遺跡推定域は、四国農業試験場と香色山周辺を除けば全て市街地であり、人家が立ち並んでおり、これまでに行なわれた調査も数例しかないが、今回の調査を含めて数多くの重要な遺構・遺物が発見されている。遺跡全体を考えると、いずれも極めて断片的な資料にすぎないが、その調査の結果などから、遺跡推定域の地形は現在では平坦であるが、当時は金倉川・弘田川の支流が縦横に走り、かなり起伏に豊んだ地形であったことが考えられる。

また現在も、四国横断自動車道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査が丸龜平野でも随所で行なわれ、普通寺市内でも大きな成果を上げている。これらの調査結果を踏まえた上で、旧練兵場遺跡及び周辺における今後の調査が待望される。

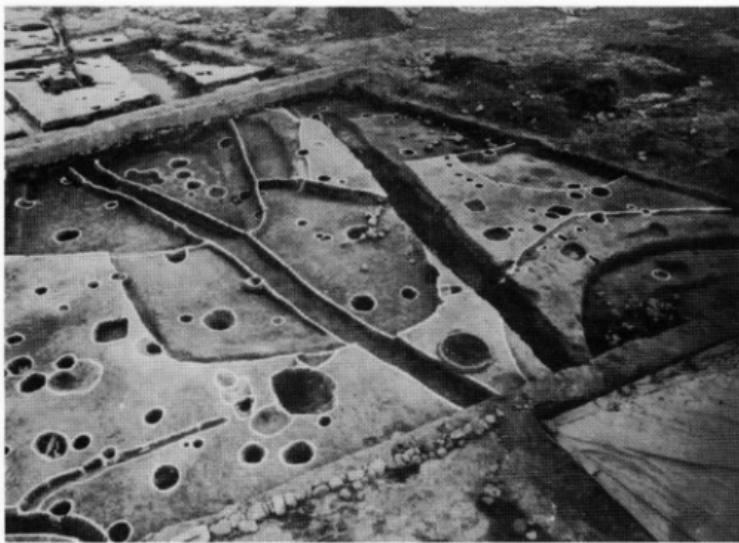
# 図 版



第229図 遺構群検出状況（3ラインから北を望む）



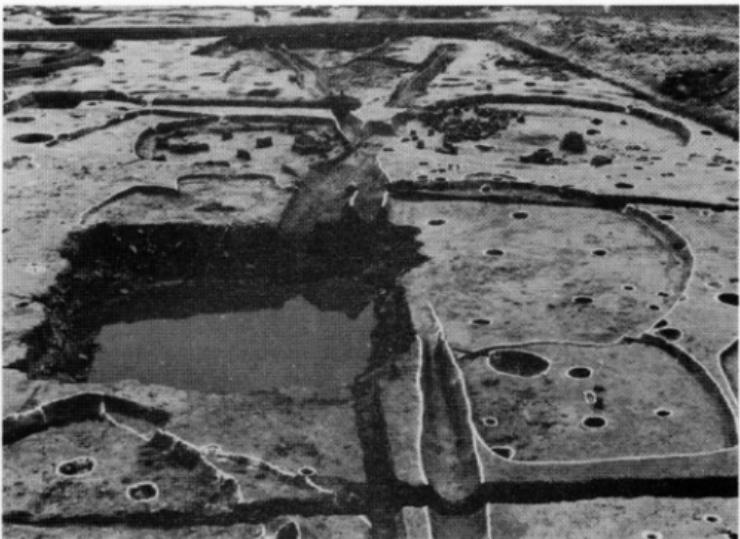
第230図 遺構群検出状況（5ラインから北東を望む）



第231図 遺構群検出状況（5ラインから北西を望む）



第232図 遺構群検出状況（7ラインから北東を望む）



第233図 遺構群検出状況（7ラインから北を望む）



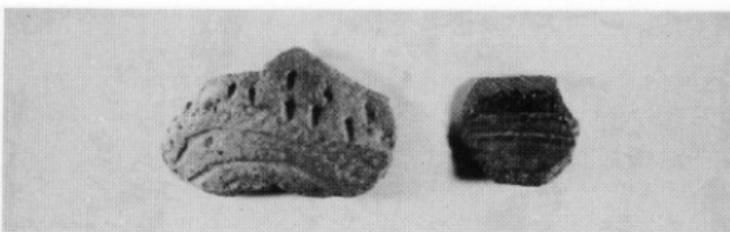
第234図 遺構群検出状況（7ラインから北西を望む）



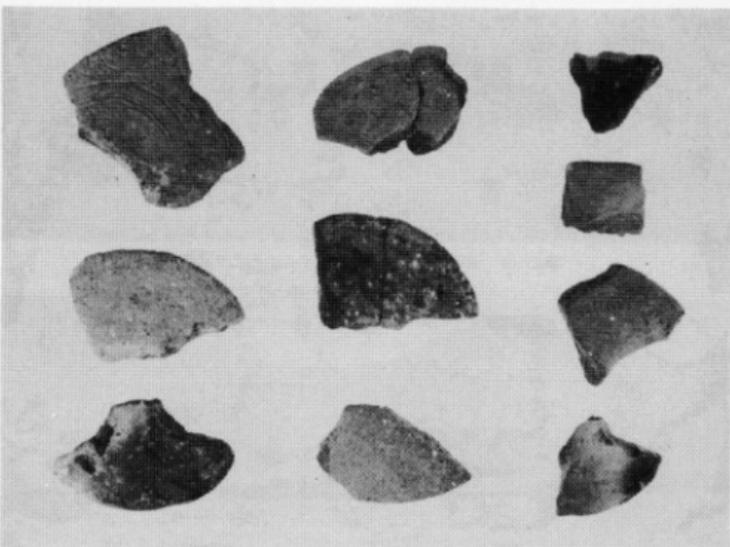
第235図 遺構群検出状況（9ラインから北を望む）



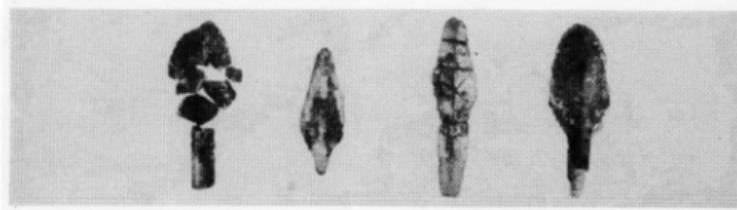
第236図 遺構群検出状況（11ラインから北を望む）



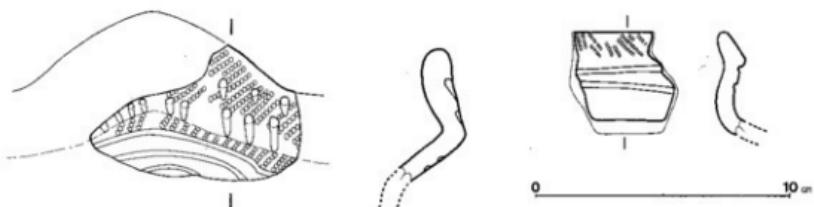
第237図 條文土器



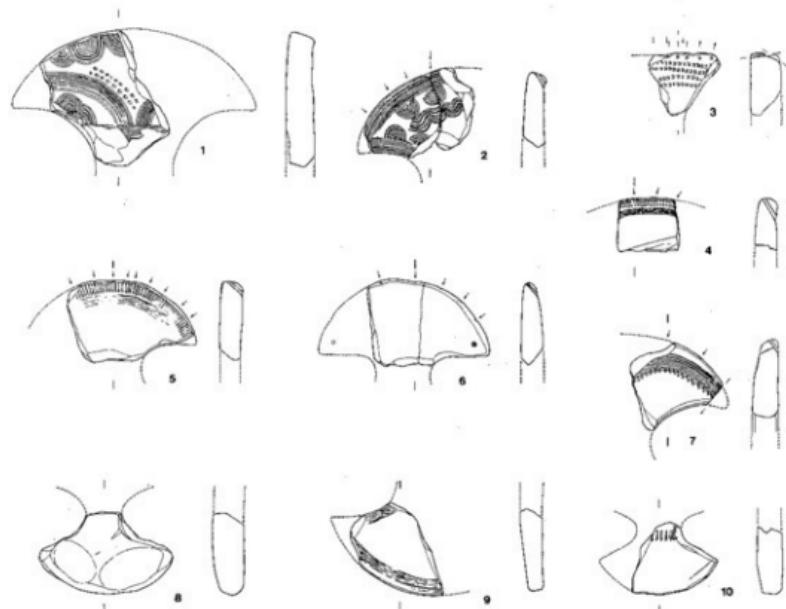
第238図 分鉢形土製品



第239図 骨 工



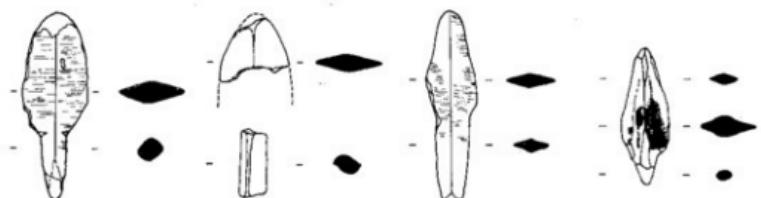
第240図 繩文土器実測図(左から S T-20埋土中・D-2 グリッド擾乱層出土)



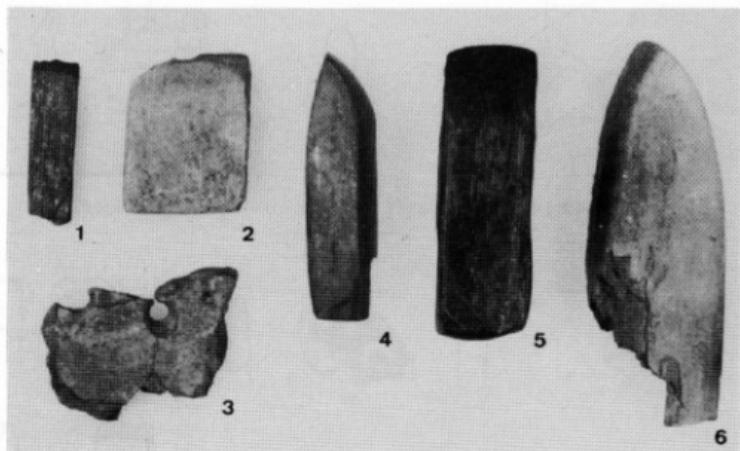
第241図

分鋼形土製品実測図

1. S T-24埋土中出土 2. C-7 グリッド擾乱層出土 3. S T-01埋土中出土  
 4. S D-02埋土中出土 5. D-1 グリッド擾乱層出土 6. C-9 グリッド擾乱層出土  
 7. S X-09壺内出土(底) 8. S T-21埋土中出土 9. E-1 グリッド擾乱層出土  
 10. S K-II 出土

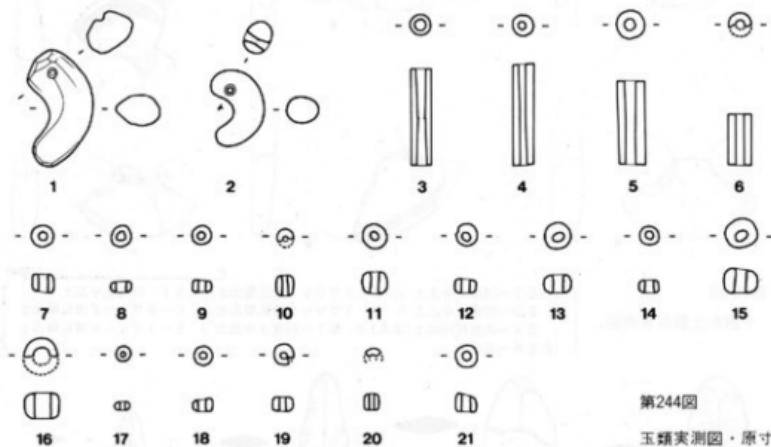


第242図 銅鏡実測図・厚寸(左から S D-05埋土中・S T-15・S T-24・S D-02埋土中出土)



第243図 磨製石器・原寸

扁平片刃石斧(1. ST-19埋土中出土 2. ST-08出土) 石包丁片(3. SD-01埋土中出土)  
柱状片刃石斧(4. C-8グリッドのピット出土 5. ST-08出土 6. ST-33出土)

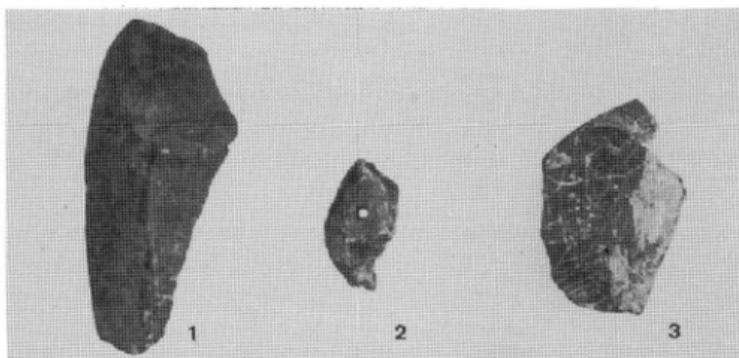


第244図  
玉類実測図・原寸

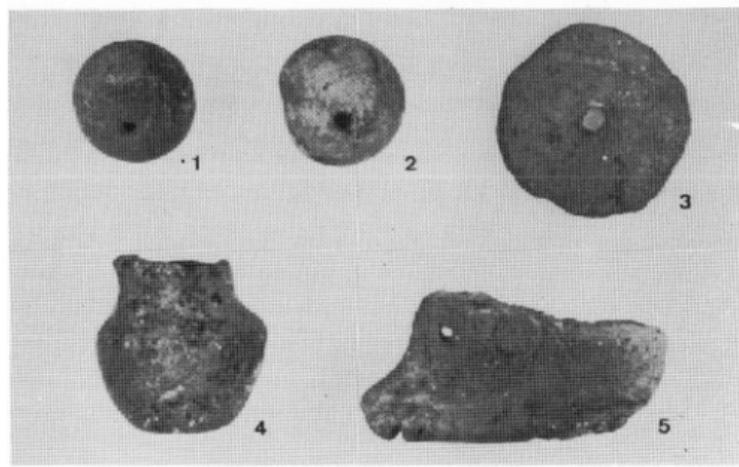
硬玉製勾玉(1. ST-24出土 2. ST-12出土)

碧玉製管玉(3. ST-13出土 4. ST-26出土 5. ST-29出土 6. ST-30出土)

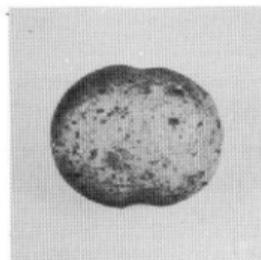
ガラス玉  
 7. ST-24出土 8. C-6グリッド擾乱層出土 9. E-5グリッド擾乱層出土 10. ST-25出土  
 11. ST-27出土 12・13. C-6グリッドのピット出土 14. ST-20出土 15. ST-26出土  
 16. C-4グリッド擾乱層出土 17. SD-05埋土出土 18. B-9グリッド擾乱層出土  
 19. C-4グリッド擾乱層出土 20. SX-07壺棺内出土(混入) 21. ST-12出土



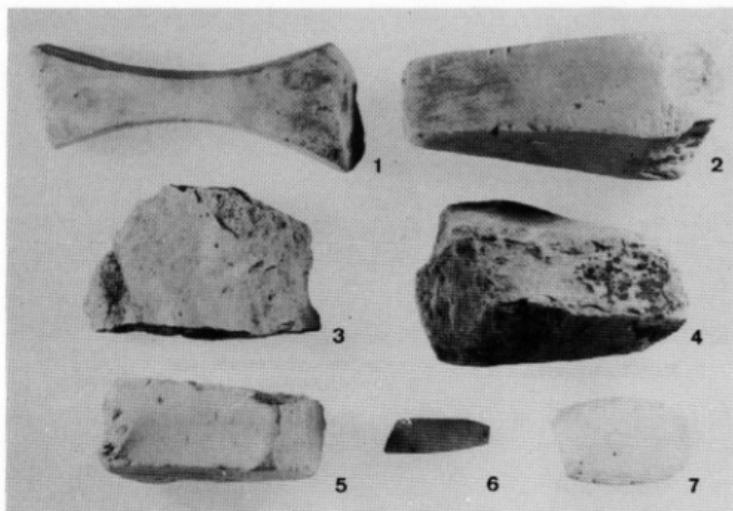
第245図 石製模造品・原寸  
 (1. SD-05出土の粘板岩製磨製石製品  
 2. ST-29出土の滑石製品 3. ST-04出土の滑石製品)



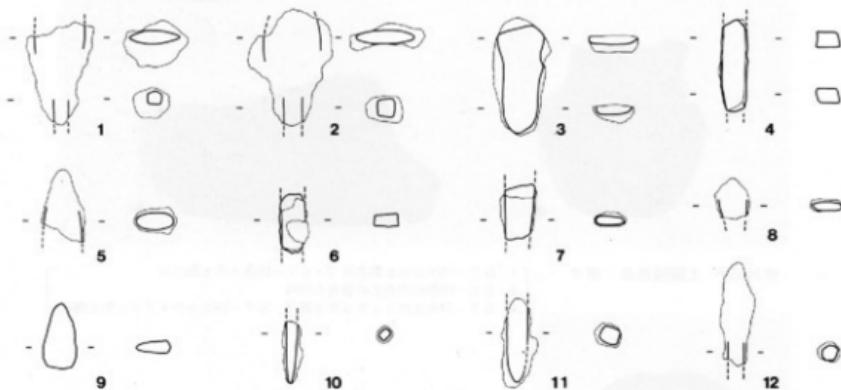
第246図 土製模造品・原寸  
 (1. ST-15出土の土製丸玉 2. ST-09出土の土製丸玉  
 3. SX-09墓坑内出土の製有孔円板  
 4. ST-24出土のミニチュア土器 5. ST-24出土のイノシシ形土製品)



第247図 有溝石榠・1 (ST-35出土)



第248図 砕石・1:3 ( 1. ST-21出土 2. ST-12出土 3. ST-09出土 4. ST-20出土  
5. ST-02出土 6. ST-12出土 7. ST-21出土 )

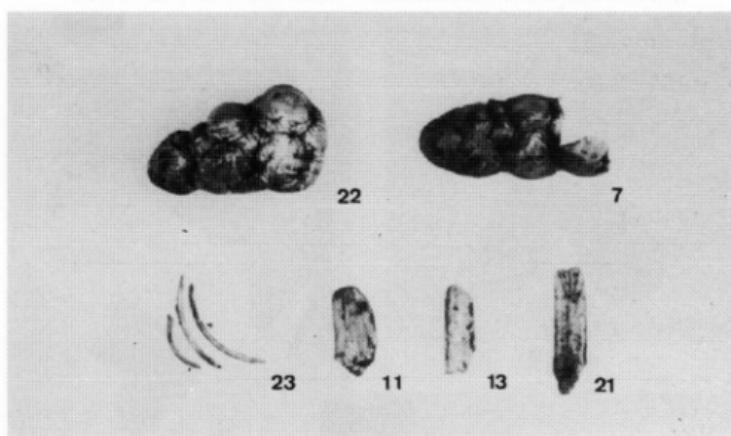


第249図 鉄器片実測図

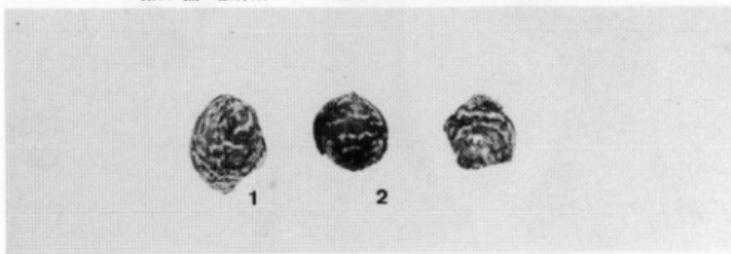
( 1. ST-21出土 2. ST-31出土 3. ST-33出土 4. SD-02出土 5. ST-24出土  
6. ST-09出土 7. C-4 グリッド撲乱層出土 8. ST-20出土 9. ST-35出土  
10. ST-09出土 11. ST-09出土 12. D-6 グリッド撲乱層出土 )



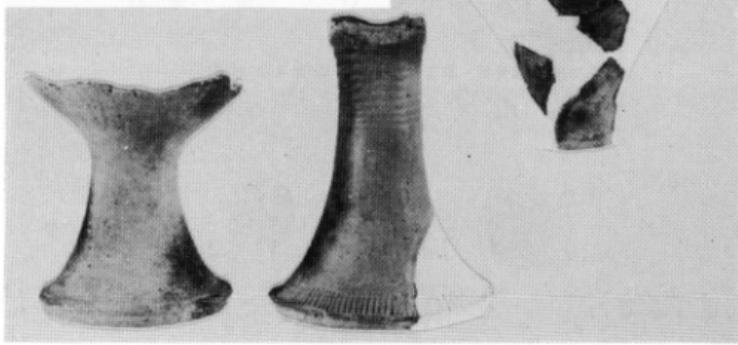
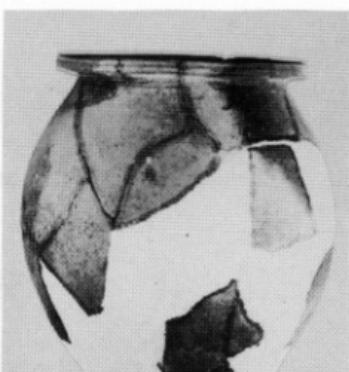
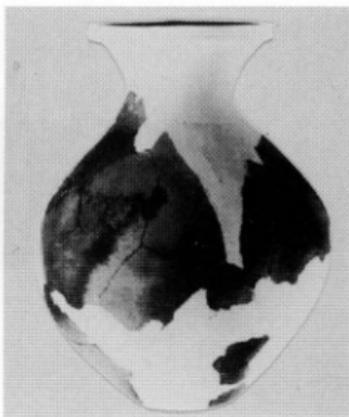
第250図 SD-02出土の牛頸骨・1:2(土師器の壺・ミニチュア土器が伴出)



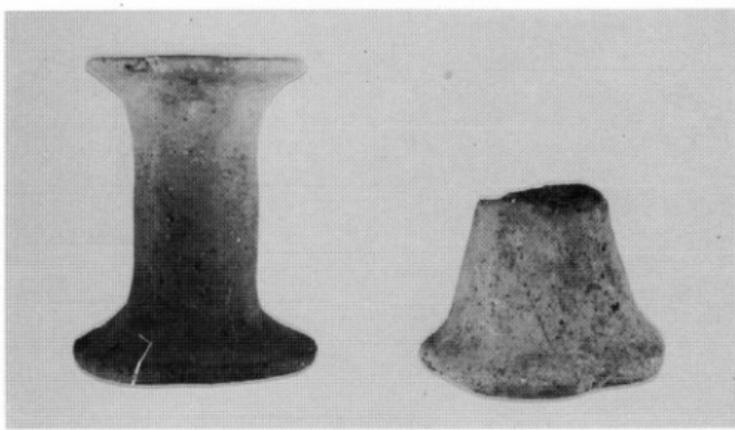
第251図 鹿骨類・原寸(番号はP.154鹿骨類分析表の試料No.)



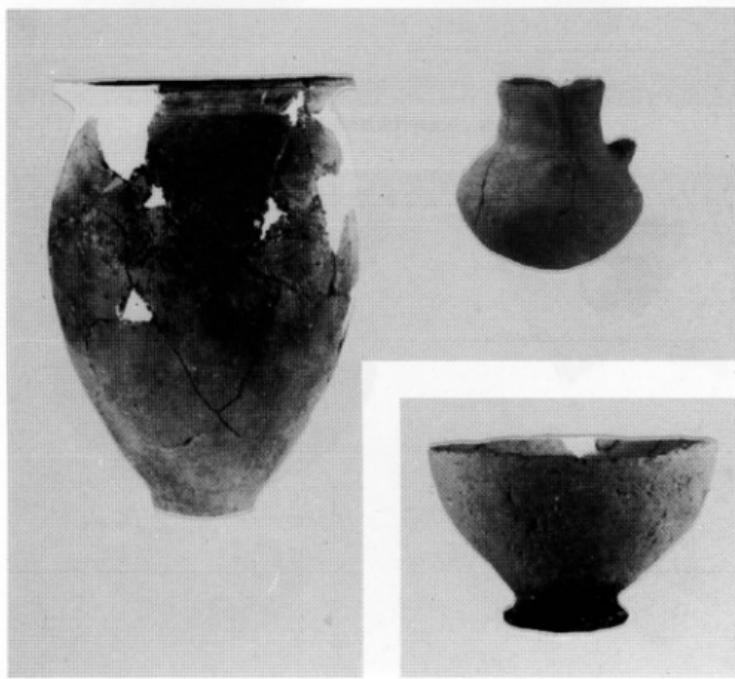
第252図 炭化種子・原寸(番号はP.155炭化種子分析表の試料No.)



第253図 弥生時代中期の土器



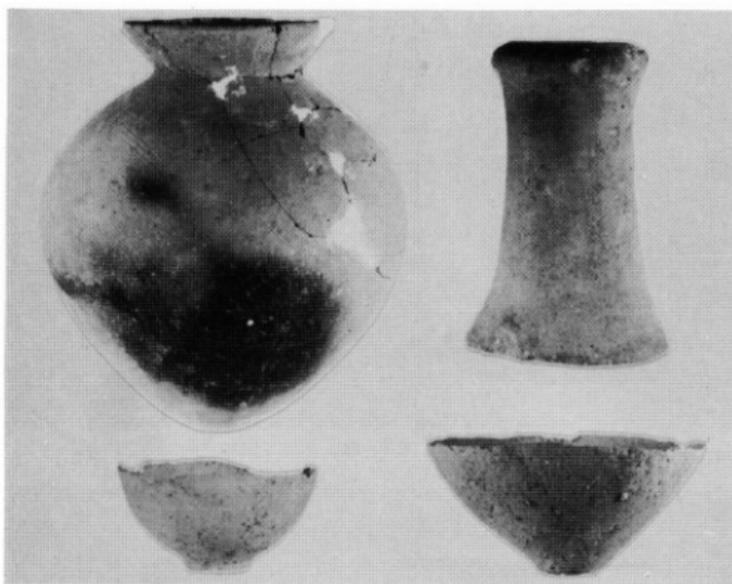
S T - 23



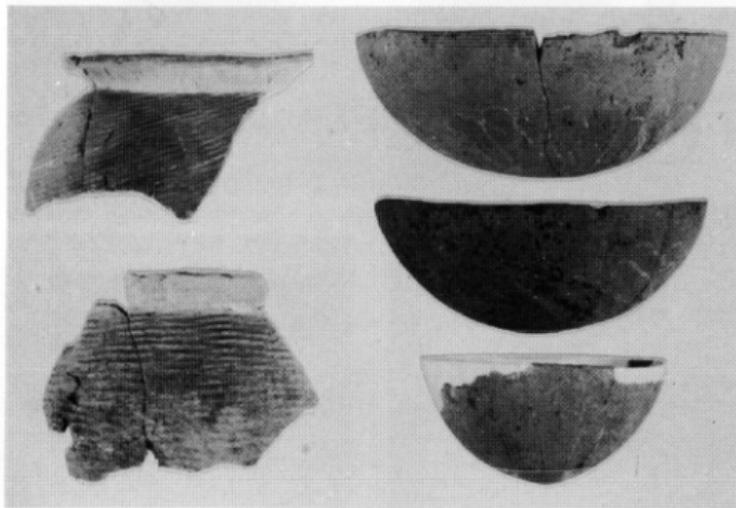
S T - 13

第254図 弥生時代後期の土器

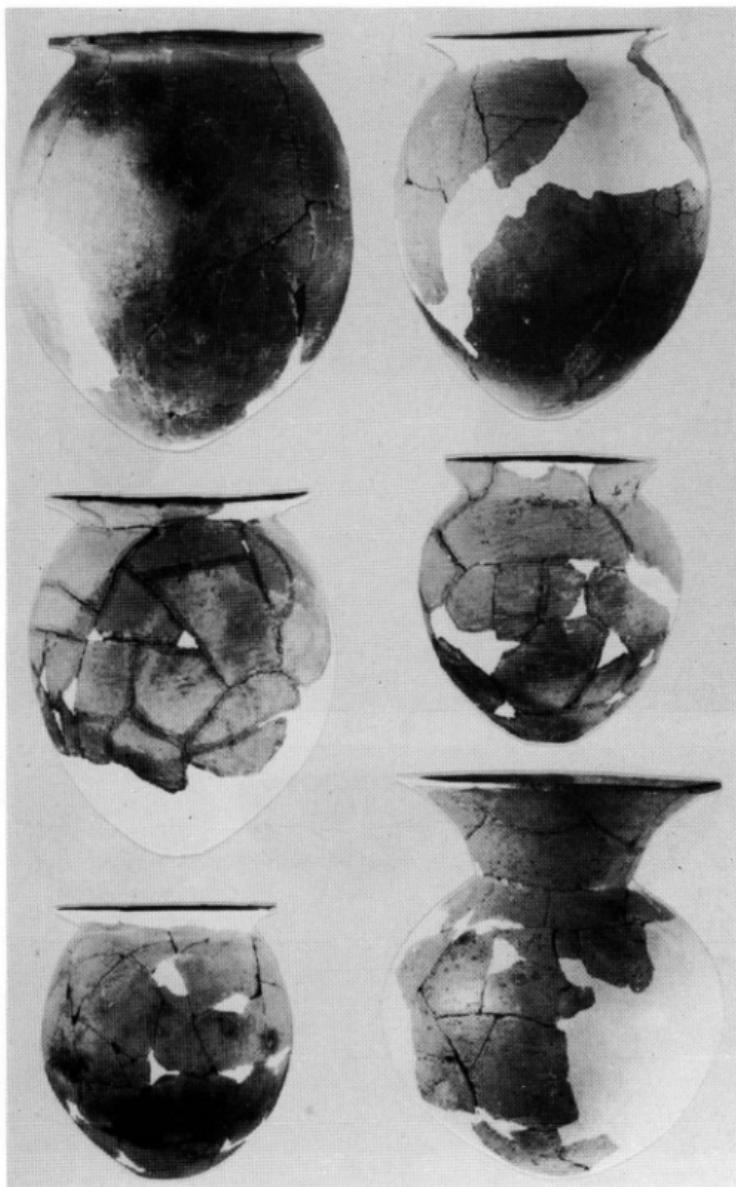
S T - 25



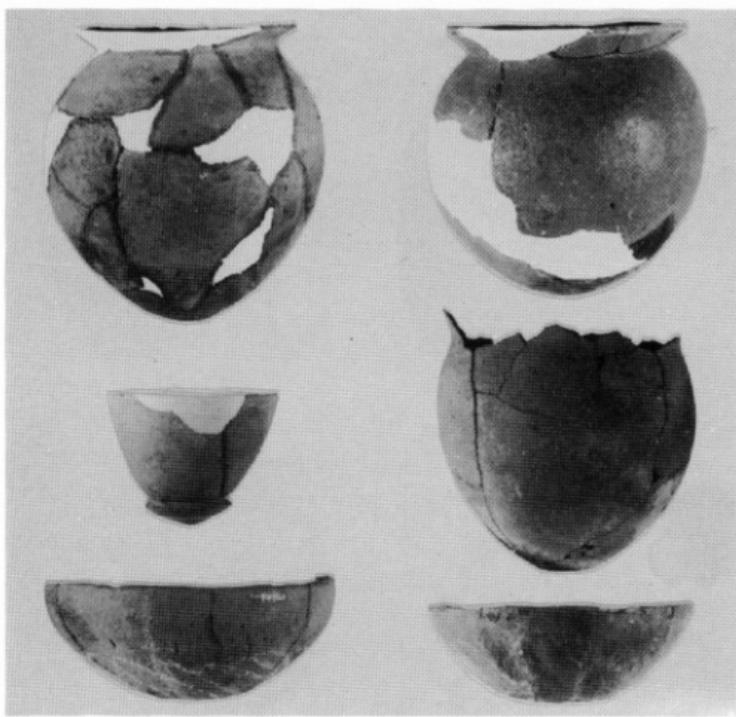
第255図 弥生時代後期の土器・S T-20



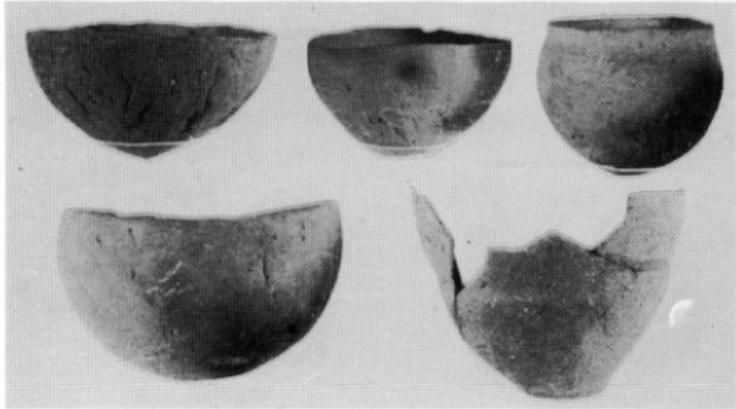
第256図 弥生時代終末期の土器・S T-09



第257図 弥生時代終末期の土器・S T-12

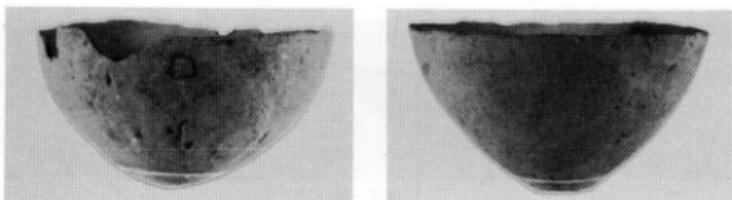


S T - 12



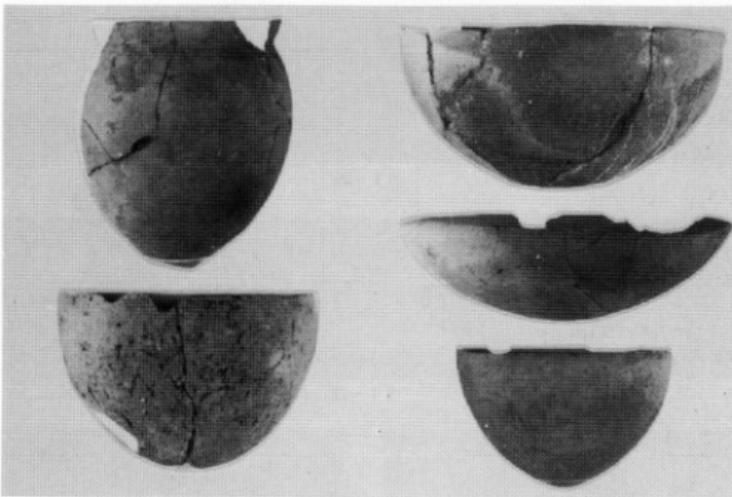
S T - 15

第258図 弥生時代終末期の土器

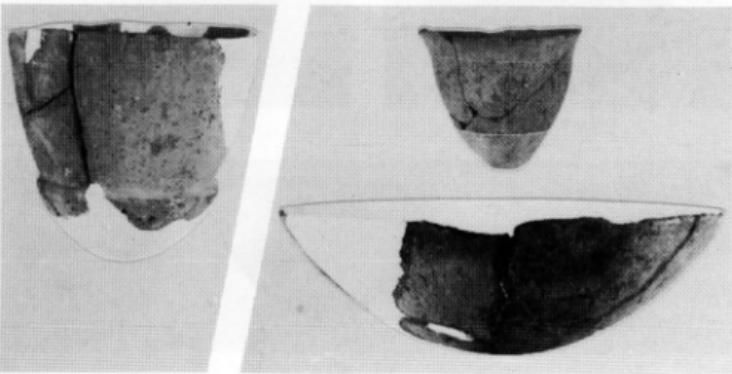


S T - 17

S T - 18



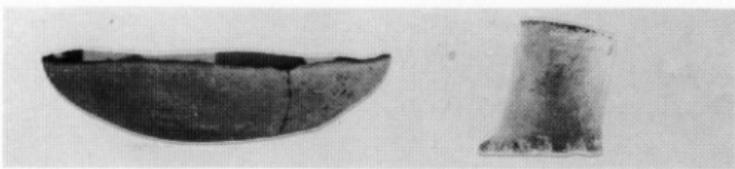
S T - 21



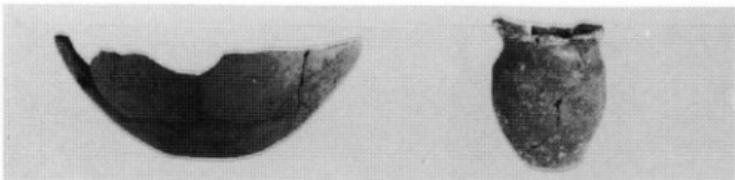
S T - 22

S T - 24

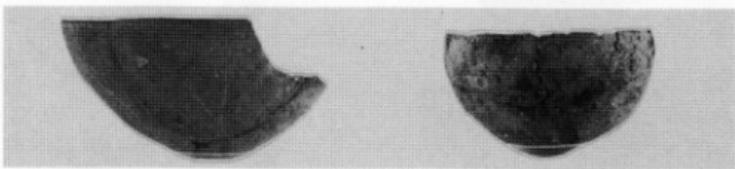
第259図 弥生時代終末期の土器



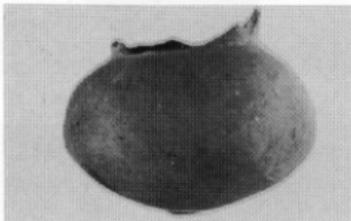
ST-01



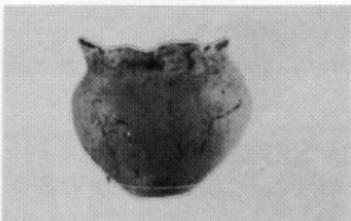
ST-26



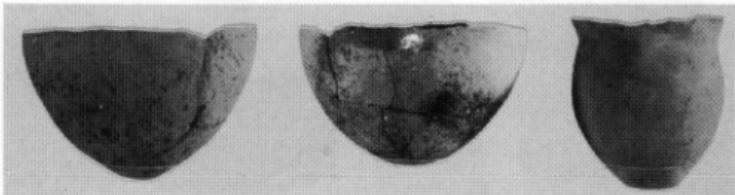
ST-27



ST-30

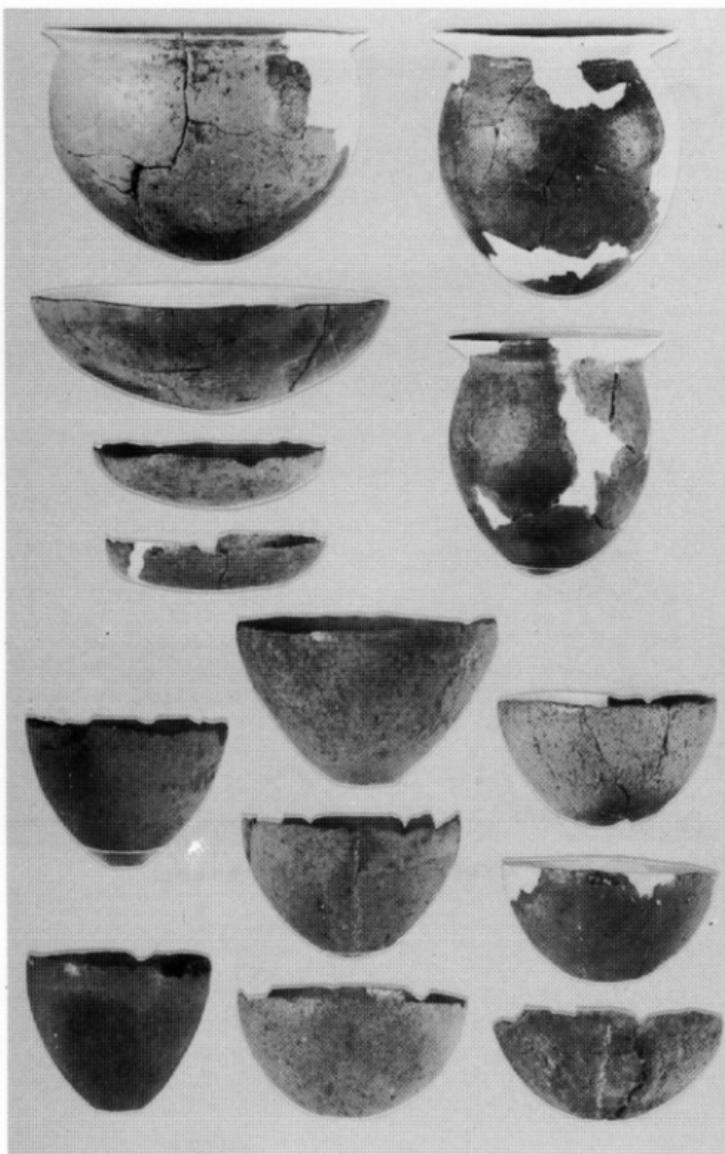


ST-33

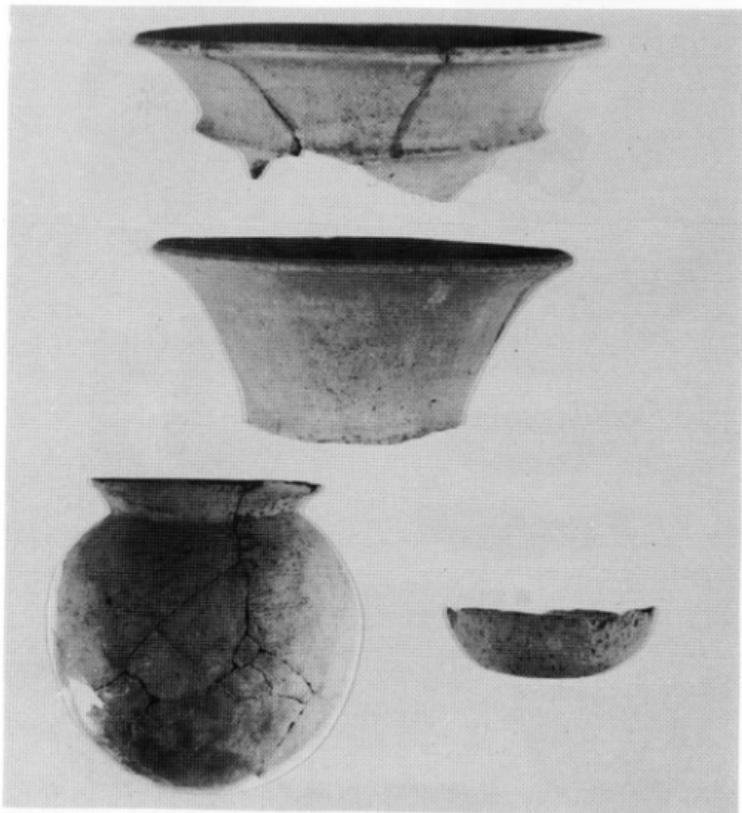


ST-32

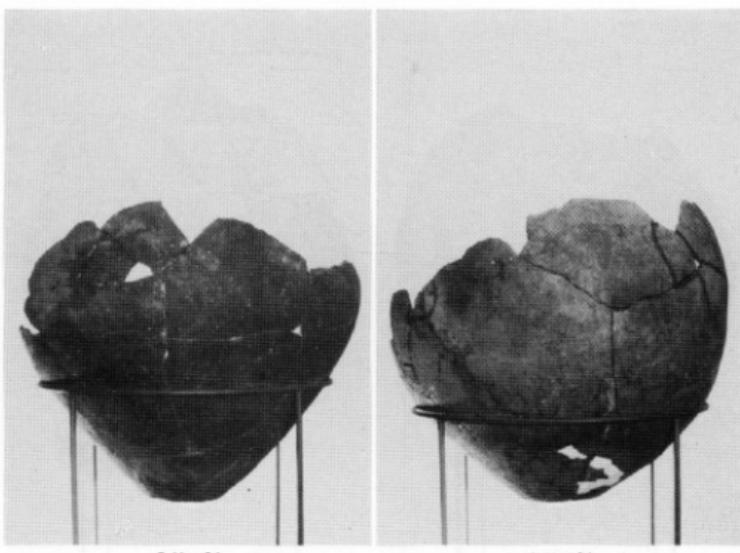
第260図 弥生時代終末期の土器



S T - 31  
第261図 弥生時代終末期の土器

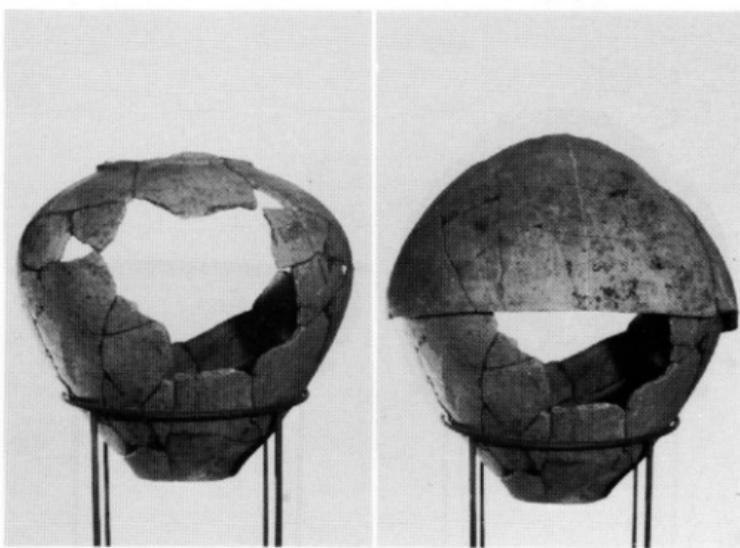


第262図 弥生時代終末期の土器（S T-15 II層直上出土）



S X - 01

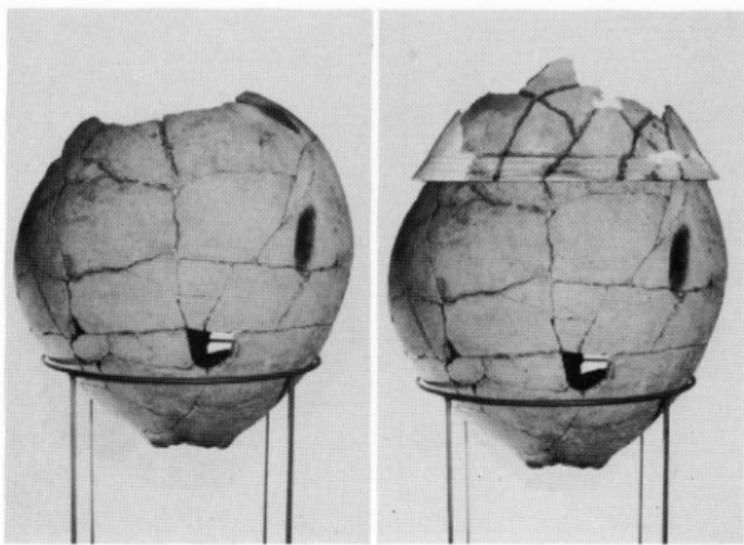
S X - 04



S X - 02

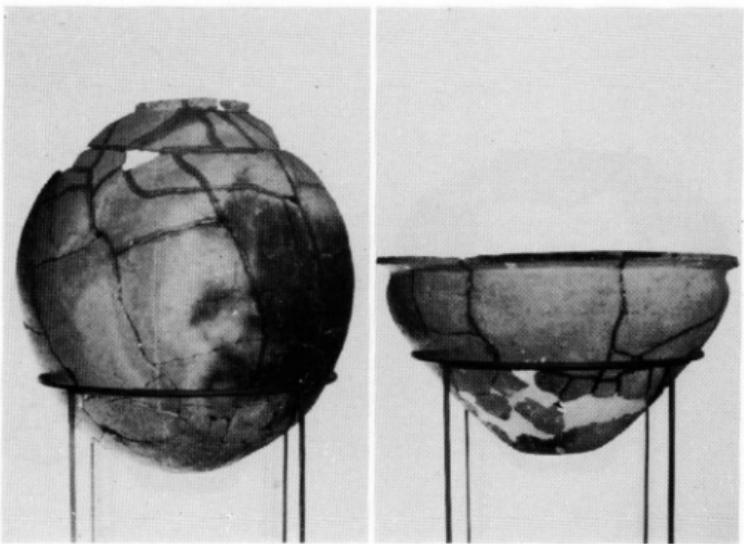
S X - 02

第263図 小兒壺棺



S X - 03

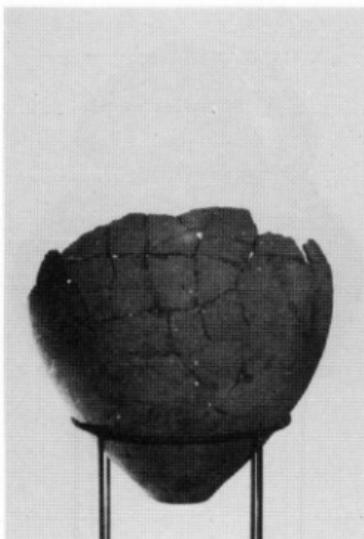
S X - 03



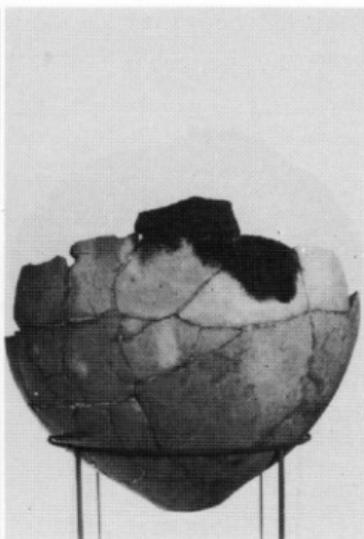
S X - 05

S X - 05

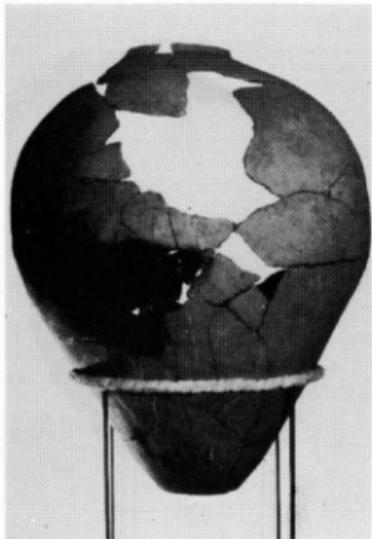
第264図 小児壺棺



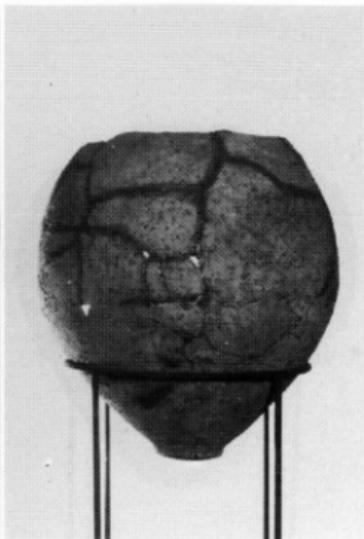
S X - 06



S X - 07

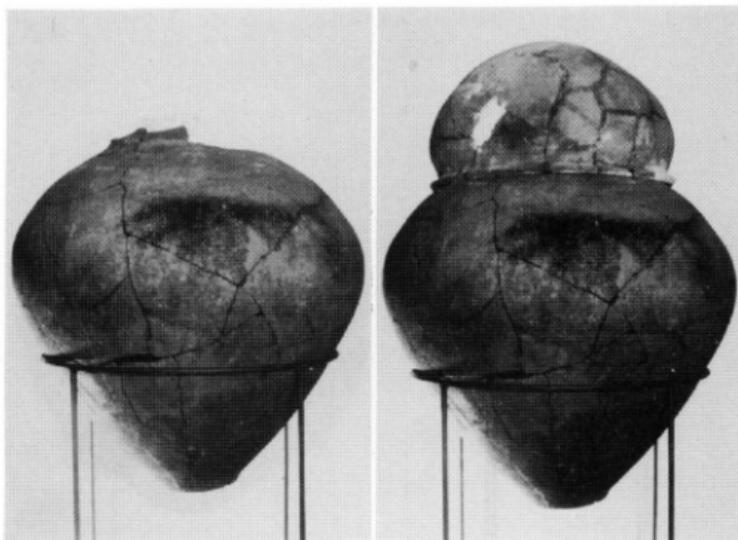


S X - 09



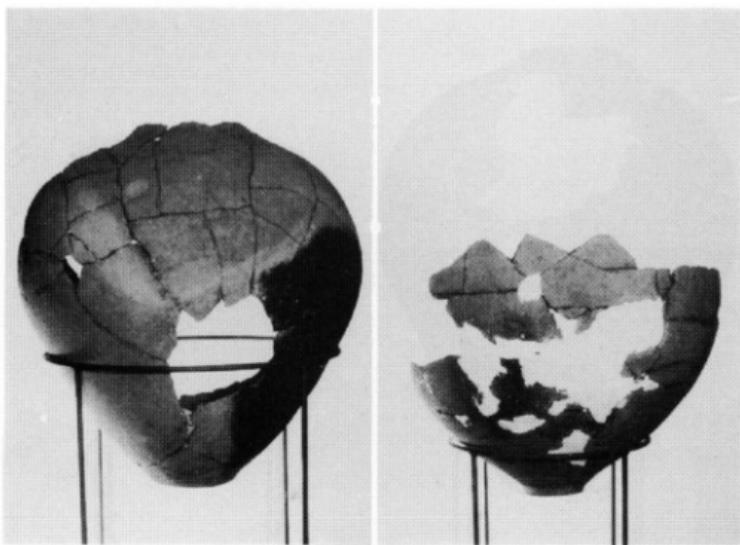
S X - 11

第265図 小児壺棺



S X - 10

S X - 10



S X - 13

S X - 12

第266圖 小兒壺棺